

地区別まちづくり方針検討の経過報告

1. 駒込地区	2
2. 巣鴨・西巣鴨地区	3
3. 大塚地区	4
4. 池袋北地区	5
5. 池袋東地区	6
6. 池袋西地区	7
7. 雑司が谷地区	8
8. 高田地区	9
9. 目白地区	10
10. 高松・要町・千川地区	11
11. 長崎・千早地区	12
12. 南長崎地区	13
拠点に関する意見交換結果	15

駒込地区

現行都市マスにおけるまちづくりの目標と課題

●まちづくりの目標

～四季の花咲く文教のまち～

江戸時代から園芸の地であり、染井霊園のソメイヨシノ、駒込駅の色鮮やかなツツジなど、今もこの名残りが随所にみられる地区です。歴史ある文教のまちにふさわしいアメニティ豊かなまちをめざします。

●まちづくりの主な課題

- ①花とみどりと文教のまちの形成（アメニティの向上）
- ②にぎやかな暮らしよいまちの形成（商業業務と生活の拠点整備）
- ③安全・安心で快適なまちの形成（防災性の向上）

地区における主なまちづくり事業の進捗状況

●染井霊園周辺地区（駒込3・6・7丁目）

・平成元年度に、「居住環境総合整備事業」に承認され、まちづくりセンターや門と蔵のある広場、染井よしの桜の里公園などの整備を進め、平成20年度に事業が終了

●補助81号線

・東京都の「木密地域不燃化10年プロジェクト」の「特定整備路線」として、2020年（平成32年）までに整備することを目標。

●放射10号線（本郷通り）

・現在も概成区間（ほぼ60%以上の出来上がり、もしくは現道18m以上）となっている

●染井地区

・平成14年12月に東京都公園審議会から「区部霊園が明治7年の開設以来130年の歴史の中で育んだ自然資源や歴史的な人文資源は都民共有の貴重な財産であり、区部霊園は、そうした財産を良好に保全しながら、霊園利用者だけでなく広く都民が利用できるよう、「霊園」と「公園」が共存した空間として再生する。」との答申が出され、再整備に向けた取り組みが行われている

区民ワークショップの開催

区民ワークショップにおける主な意見

<まちづくりの視点>

- ・歴史文化や伝統を保全するという視点も重要
- <「駒込地区」のシンボルである「桜」をテーマとするまちづくりについて>
- ・桜を生かした独自の生活文化が残っており、駒込地区のブランドとして発信していくべき
- ・世代間交流や子供の教育にも「桜文化」を活用していくことが重要
- ・新旧の住民によるコミュニティづくりのきっかけとして桜文化を活用
- ・駒込7丁目付近に「さくら」をテーマとした常設の拠点（例えば、さくら文化資料館）を設置することで地区に回遊性が生まれる。

<地域の活性化拠点について>

- ・中央卸売市場では、花、野菜、果物等の即売が行われ、そのときは大変なにぎわいがある。
- ・そういった取組みを常設で行うような施設を、地区の拠点として整備してはどうだろうか。「年間を通したにぎわい」を創出することができる。

<駒込駅について>

- ・商店街（駒込銀座通り）との連携を考えると、東側の交通結節機能が弱い。
- ・単なる交通広場を整備するというのではなく、駅前にはベンチなどをおいた、ゆったりとした交流スペースを整備する。

<補助81号線について>

- ・道路整備による地域の分断や交通量の増加により、結果として地域の破壊につながることを危惧
- ・地域では補助81号に対する反対運動が起きている
- ・消火栓を地域内に密度高く配置し、それらを使った地域の防災訓練を充実することで、コミュニティの防災力が高まる
- ・道路を整備しなくても、北区側の「西ヶ原みんなの公園」や染井霊園などが不燃化空間として存在
- ・白山通りから本妙寺方向に向かう道路と、「西ヶ原みんなの公園」の南側を走る道路（東西方向に走る道路）がつながっていないので、この部分はつながった方がよい。

<コミュニティを育む都市空間について>

- ・住んでいる人が安全・安心を感じることができるまちづくりが重要
- ・ハードとソフトが自然と融和していることが、人と人との結びつきを高める空間になる
- ・染井よしの桜の里公園、駒込小学校と西福寺の間の桜並木、門と蔵のある広場の一角は、シンボリックかつコミュニティを育む空間
- ・染井霊園～染井よしの桜の里公園周辺～駒込駅南の駒込東公園を結ぶ道路は、コミュニティの軸となる道路
- ・駒込東公園は、自然の地形（土地の高低差）を残した、趣のある公園
- ・高台の方に比べて、駒込七丁目などの低地部は、広々とした公園・広場が少ない

<公共施設等の土地利用転換後の跡地利用について>

- ・公共施設等の跡地利用は、周辺を含めたまちづくりとして考えることが必要

<都市マスの表現方法について>

- ・概念が明確にイメージできる言葉を使ってほしい

区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針（全体構想）への主な反映事項

- 公共施設の跡地利用は、地域がかかえる課題の解決など、周辺も含めたまちづくりとして取り組むことが必要
- 区民にもわかりやすい表現での作成

区民WSを踏まえた、これからのまちづくり方針検討のポイント

- ①みどりと歴史文化資源のネットワーク化
 - ・地区内の個性あるみどりと歴史文化資源を結ぶことにより回遊性を創出
 - 染井霊園
 - 染井よしの桜の里公園、駒込小学校と西福寺の間の桜並木、門と蔵のある広場の一角
 - 染井吉野桜記念公園（駅前）
 - 駒込東公園
 - ・地区内の回遊性を強化するため、駒込7丁目地区で桜文化の発信拠点を導入
- ②地域交流の拠点としての公園・広場の活用
 - ・桜を媒体とした世代間交流の場としての活用
 - ・地域イベントの場としての活用
- ③ゆとりや潤いを感じられる駅前空間の形成
 - ・駅周辺でのオープンスペース、憩いの空間整備
 - ・交通結節機能の機能と合わせた広場空間の創出
 - ・地区の魅力の情報発信機能の充実
- ④防災性の向上
 - ・コミュニティの防災力の充実

巣鴨・西巣鴨地区

現行都市マスにおけるまちづくりの目標と課題

●まちづくりの目標

～にぎわいと落ち着いた暮らしがふれあうまち～

地蔵通り商店街のにぎわいによる活気と落ち着いた暮らしの住宅地とが織りなすふれあいのまちをめざします。

●まちづくりの主な課題

- ①活気あふれる商業のまちの形成（商業業務拠点と商店街の整備）
- ②生活しやすいまちの形成（良好な住環境の形成）
- ③歴史を育むまちの形成（アメニティの向上）

区民ワークショップの開催

区民ワークショップにおける主な意見

<防災について>

- ・安全に避難できる道路の整備
- ・避難計画と整合した公園整備計画の検討
- ・帰宅困難者と地域住民の避難の双方に対応できる対策が必要
- ・地蔵通りなどの観光客に対する避難対策

<住環境について>

- ・狭隘道路は防災面で問題あるが、車が少ないので子供の遊び場にもなっている。このような側面も重要
- ・緑を増やす（巣鴨駅周辺、地蔵通り、白山通り）
- ・多世代が交流できる場
- ・巣鴨3丁目周辺は子供が集まる施設が多いため、交通安全面に配慮すべき。

<道路環境について>

- ・巣鴨地区における広くて安全な避難道路と観光道路の共用
- ・地中化、バリアフリー化

<補助81号線周辺まちづくり>

- ・沿道における具体的なまちづくりの姿が見えない
- ・道路整備により既存コミュニティが分断される
- ・障害者への配慮

<公園について>

- ・多様な公園の整備（みんなが使える、子供たちが遊べる、喫茶スペースがある、運動できる）

<観光について>

- ・観光資源としての活用（大正大学の「さざえ堂」、地蔵通り商店街のシャッターの東海道五十三次の絵）
- ・施設の充実・整備（観光ルートの案内板の設置、観光バスの駐車スペース（都バス車庫の活用））
- ・地蔵通りの街灯LED化、電線地中化などの環境面の取り組みと「おもてなし」の組み合わせ
- ・地域の誇りとなる観光であることが必要である
- ・染井霊園も重要な観光資源であり、位置づけていく必要がある

<地域資源について>

- ・千川上水の復活と旧中山道により古い文化を継承する回廊として活用
- ・安全性に配慮した路地空間の保全
- ・都電荒川線の活性化による観光やまちづくりへの活用

区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針（全体構想）への主な反映事項

- 地域防災対策の一層の強化（防災機能強化、密集市街地改善）
- 交流拠点（巣鴨駅周辺地区）の機能強化
- 観光都市としての活性化
- 都市マス進行管理の仕組みの確立

区民WSを踏まえた、これからのまちづくり方針検討のポイント

- ①防災まちづくりの一層の推進
 - ・生活道路網の整備、不燃化の推進
 - ・延焼遮断帯（補81号）整備の推進と沿道まちづくり
 - ・来街者の帰宅困難者対策
- ②不足している公園、オープンスペースの整備推進
 - ・多様な公園の整備
- ③多彩な地域資源を活用した地区の魅力づくり
 - ・地蔵通り ・中山道 ・千川上水 ・都電
 - ・染井霊園 ・路地空間 など
- ④特色ある観光地（地蔵通り）における観光機能強化と地域との融合
 - ・観光客対応機能の充実（大型観光バス駐車場、トイレ、景観等）
 - ・持続ある観光地としての将来展望
 - ・地域が誇れる観光地づくり
- ⑤交流拠点としての巣鴨駅周辺地区の機能強化
 - ・鉄道事業者間の連携による円滑な歩行動線の創出
 - ・生活関連機能の誘導（保育所等）
 - ・交通結節機能のより一層の強化（バス網、駐輪場等）

地区における主なまちづくり事業の進捗状況

●環状5の1号線

- ・西巣鴨交差点から堀割交差点（庚申塚通り交差点）の間が事業未着手

●放射9号線

- ・一部区間は完成し、残りの区間は現在事業中

●補助79号線

- ・事業未着手

●補助81号線

- ・放射9号線～補助181号線までは「特定整備路線」として平成32年までに整備することを目標。併せて沿道まちづくりを進める

●染井地区

- ・アメニティ形成条例に基づき、快適な環境形成を推進中

●染井霊園周辺地区（巣鴨5丁目および西巣鴨4丁目の一部）

- ・平成元年度に、「居住環境総合整備事業」に承認され、まちづくりセンター、コミュニティ広場等の施設整備や建て替え等を進め、平成20年度に事業完了

●朝日中学校跡地

- ・アートファクトリー「にしすがも創造舎」として2004年8月にオープンし、地域におけるアートのまちづくりを展開

大塚地区

現行都市マスにおけるまちづくりの目標と課題

●まちづくりの目標

～魅力あふれる拠点に人びとが集うまち～

大塚駅を中心に道路や都電が通るこの地区では、人びとがまた訪れたいと感じる魅力ある拠点の整備をはかり、にぎわいのあるまちの形成をめざします。

●まちづくりの主な課題

- ①駅を中心に人が集うまち
(拠点となる駅周辺の再整備)
- ②安全・安心で快適なまち (防災性の向上)
- ③魅力ある顔を持つまち (アメニティの向上)

地区における主なまちづくり事業の進捗状況

- 補助 79 号線
・事業未着手

●北大塚二丁目周辺

・「地区計画」等を活用した市街地整備は行われていないが、狭あい道路整備事業等により、建物の 4 m 道路への接道の確保や、二方向避難通路の設置を推進中

●上池袋地区

・平成 3 年度に「居住環境総合整備事業」が承認されて以降、まちづくりセンター、広場、公園等の施設整備や建替え等を進め、現在も事業継続中

●癌研究所附属病院跡地

・癌研究会附属病院が平成 17 年春に臨海副都心に移転、その跡地を上池袋東公園（防災公園街区整備事業）、集合賃貸住宅と商業施設の複合開発（ドレシア上池袋）を実施

区民ワークショップの開催

区民ワークショップにおける主な意見

<まち全体のイメージについて>

- ・静かで交通の便がよく家賃も安く暮らしやすいまち
- ・住むなら池袋より大塚
- ・大塚の資源を生かした回遊性のあるまちづくり
- ・子育てしやすい、日常生活の利便性が高いまちづくり

<都電を活かしたまちづくりについて>

- ・特徴である都電を生かしたまちづくりが重要
- ・都電沿いの緑化活動を大塚地区全体へ拡大

<商店街への誘客について>

- ・駅ビルへの来客者及び就業者を商店街へ呼び込む取組みが重要
- ・大塚駅での乗降客を商店街へ誘客し、まちの賑わいにつなげることが重要

<交通利便性の向上について>

- ・空蟬橋側への改札設置による街の新たな活性化
- ・自転車対策として、自転車専用レーンの設置
- ・コミュニティバスの検討

<防災・防犯について>

- ・住民の連携、ネットワークによる減災対策が必要
- ・空き地が少なく、防災面で不安
- ・防災公園の整備が必要
- ・道路が狭く、危険な箇所がある
- ・他区に比べ街灯が少なく防犯面で不安
- ・都市型水害に対応した対策が必要

<みどりについて>

- ・安心して憩える公園の整備
- ・桜並木の保全が必要

<文京区との連携について>

- ・文京区と連携した新大塚駅周辺の活性化

<地域コミュニティ活動について>

- ・町会の活動に参画する若者が少なく、町会活動が停滞
- ・コミュニティの形成を考えたまちづくりが必要

<大塚三業通りの観光活用について>

- ・かつての面影を掘り起こし、観光等に活用

<宮仲公園通りについて>

- ・大規模マンション開発によるまちの様子の変化（夜遅くまで人が歩くようになった）

区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針（全体構想）への主な反映事項

- 地域防災対策の一層の強化（防災機能強化、密集市街地改善、都市型水害対策強化）
- 交流拠点（大塚駅周辺地区）の機能強化
- 都電を生かした景観の形成
- 協働まちづくりの仕組みの確立

区民WSを踏まえた、これからのまちづくり方針検討のポイント

①防災まちづくりの推進

- ・生活道路網の整備、不燃化の推進
- ・都市型水害対策の推進
- ・防災機能を備えた公園の整備

②交流拠点としての大塚駅周辺地区の機能強化

- ・交通結節機能のより一層の強化（都電との乗換え、自転車専用レーンの設置、西口改札設置の検討など）
- ・駅利用者、駅ビル利用者をまち中へ誘客できる仕組みづくり

③多彩な地域資源を活用した地区の魅力づくり

- ・都電沿線のバラ、桜並木を生かした回遊性の向上
- ・大塚地区の地域資源、イベントを生かしたまちづくり

④都電を生かしたまちづくり

- ・都電沿線の緑化活動をきっかけとしたコミュニティ形成
- ・都電沿線の緑化を生かした景観による魅力づくり

⑤質の高い公園、オープンスペースの整備推進

- ・安心して憩える公園やオープンスペースの整備

池袋北地区

現行都市マスにおけるまちづくりの目標と課題

●まちづくりの目標

～多世代で安全・安心して暮らせるまち～

旧鎌倉街道にそって発達した古くからの地域コミュニティを基礎として、密集地の改善や学校、公園、区民施設などを活用した防災まちづくりをすすめ、都市計画道路の整備とあわせ、多世代が安全・安心して暮らせるまちの形成をめざします。

●まちづくりの主な課題

- ①安全・安心で快適なまちの形成
(防災性の向上)
- ②便利で活気あるまちの形成
(生活や商業業務等の拠点の整備)
- ③魅力ある都市住宅のまちの形成
(総合的な住環境の改善)

地区における主なまちづくり事業の進捗状況

●都市計画道路補助 73 号線

・「特定整備路線」として、2020 年（平成 32 年）までに整備することを目標に事業着手

●都市計画道路補助 82 号線

・「特定整備路線」として、2020 年（平成 32 年）までに整備することを目標に事業着手

●上池袋 2 丁目から 4 丁目全域

・平成 3 年度に「居住環境総合整備事業」が承認されて以降、用地取得 16 か所 8,138.11 m²、施設建設 9 施設、17 棟の建て替えを実施し、現在も継続中

●池袋本町全域

・「防災生活圏促進事業」の終了後、平成 17 年度からは、「居住環境総合整備事業」に移行し、用地取得 1 か所、施設建設 2 施設の整備を実施し、現在も継続中

●池袋本町 1 丁目の鉄道建設公団所有の敷地

・防災広場（プレーパーク）として供用中。現池袋第二小学校と防災広場を合わせた敷地に、池袋本町地区校舎併設型小・中連携校の新校舎を整備。平成 28 年 8 月に池袋中学校として供用開始し、平成 29 年 4 月より池袋第二小学校・文成小学校の統合新校の供用を開始する予定

区民ワークショップの開催

区民ワークショップにおける主な意見

<まち全体のイメージ>

- ・ハードとソフトの両面からの防災まちづくり
- ・駅の拠点性と利便性を活かしたまちづくり
- ・住宅地の下町的な風土を活かした住民同士のコミュニケーションのあるまち
- ・自転車、たばこ、ペット、ごみ出しなどのルールを守り、まち全体としてマナーのあるまち

<防災について>

- ・木造住宅の密集地域の防災性の向上
- ・安全な避難と消防活動が可能な生活道路の整備
- ・JR 埼京線沿いは、行き止まり道路を解消して避難路とするため、歩行者動線を確保

<商店街について>

- ・身近な買い物の場と地域の交流の場の役割を担う商店街の充実
- ・商店街における宅配サービスと合わせた高齢者への見守りの検討

<駅周辺のまちづくりについて>

- ・都市計画道路の整備に合わせた、北池袋駅及び下板橋駅のアクセス道路や広場の整備
- ・北池袋駅の駅前広場や駐輪場の整備
- ・各駅の駅施設のバリアフリー化や各駅周辺の商業集積の促進等により駅の拠点性を向上
- ・自転車の路上駐輪の防止

<コミュニティについて>

- ・地域の東西が連携したコミュニティの形成
- ・マンション等の新住民と既存住民の交流促進、自治会や民生委員が連携した地域交流の強化
- ・若者や外国人がまちづくりに参加できる仕組みづくり
- ・住民同士の交流や色々な人が気持ちよく住めるようなコミュニティの環境づくり

<幹線道路について>

- ・補助 73 号線及び 82 号線は、既存道路との適正な接続、鉄道との立体交差化、住宅地との調和を図る沿道及び周辺のまちづくりが必要
- ・幹線道路沿道は、適正な土地利用の誘導と延焼を遮断する機能の確保とともに、後背地の住宅地への配慮が必要

<住宅地について>

- ・建替えの際の敷地の細分化の抑制
- ・安全な生活道路の整備のためのセットバックの誘導
- ・まちづくりのルールを定める地区計画の指定
- ・生活道路における車の速度の抑制

<みどりについて>

- ・谷端川の氾濫防止と水の潤いの活用
- ・大規模な開発における公園・緑地や地域活動の拠点等の設置の誘導

区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針（全体構想）への主な反映事項

- 駅利便性の向上（アクセス道路・駅前広場・駐輪場等の整備、バリアフリー化、周辺商業の活性化等）
- 周辺環境と調和した幹線道路沿道のまちづくり
- 潤いの資源の活用（谷端川の水や緑地の活用等）
- 東西の地域連携の強化（鉄道による分担の解消等）

区民WSを踏まえた、これからのまちづくり方針検討のポイント

①防災まちづくりの推進

- ・補助 73 号線と補助 82 号線の整備に合わせた、周辺環境と調和した沿道のまちづくり（沿道の適正な土地利用の誘導、延焼を遮断する機能の強化、背後地の住環境への配慮等）
- ・周辺住宅地における防災性の向上（建物の共同化や建替えに合わせた狭あい道路の拡幅やすみ切りの整備、消防活動が可能な幅員を有する住宅地内の主要な道路の整備、建物の不燃化の促進等）
- ・JR 埼京線沿いは、南北の歩行者動線及び行き止まり道路を解消する避難路の確保を誘導

②北池袋駅・下板橋駅周辺の拠点の強化

- ・駅利便性の向上（駅前広場、駐輪場、駅関連施設のバリアフリー化、周辺商業の活性化等）
- ・都市計画道路の整備に合わせた、駅へのアクセシビリティや利便性の強化

③潤いの資源の活用

- ・谷端川北緑道及び沿道は、谷端川の氾濫防止と水の潤いの活用を図り、憩いの空間や街並みを形成
- ・大規模な開発等は公園や緑地の設置を誘導

④良好な住環境の充実・向上

- ・敷地の細分化の防止、接道部の緑化の促進等のルールづくり（地区計画等）
- ・住宅地内の生活道路における車の速度の抑制
- ・地域の東西及び新・旧住民が連携したコミュニティの充実・向上

⑤地域商業の活性化

- ・周辺住宅地の生活や交流を支える商店街の活性化（宅配サービスによる高齢者の見守り等）
- ・身近な買い物の場としての商業施設の立地誘導

池袋東地区

区民ワークショップにおける主な意見

＜回遊性の創出について＞

- ・グリーン大通りは、オープンカフェなどが楽しめる通りとして活用すべき
- ・にぎわいの連続性がないと人は回遊しない。
- ・標識やサインが少なく、通りの名前がわかりにくい
- ・サブカルチャーでアピールすることも可能

＜新庁舎の建設と跡地の利用について＞

- ・新庁舎整備でどれだけの緑が保障されるのか
- ・新庁舎は池袋駅から遠いので、その距離を埋めるための公共交通機関が必要ではないか。
- ・新庁舎の周辺は、にぎわいの拠点として整備すべき。
- ・現庁舎跡地は、来街者が楽しめる場所にすべき

＜駅前スペースについて＞

- ・人間中心の空間としていくことが必要
- ・駅前こそ緑豊かな空間とすべき

＜みどりについて＞

- ・造幣局移転後にできる公園は、実のなるような木の植樹、健康遊具設置などの工夫が必要
- ・東池袋公園はにぎわい創出や交流の空間として、もっと有効に活用すべき
- ・地元の人が使わないような公園は、管理が行き届かなくなり、好ましくない状態になる
- ・みどりを増やすのはいいが、適切な維持管理が必要

＜防災について＞

- ・帰宅困難者対策は民間施設も含めて、協力体制を構築することが重要
- ・普段使っていない場所は緊急時も使えない
- ・造幣局移転後の防災緑地広場では、非常時に自立できる発電施設などの機能が必要

＜低炭素都市づくりについて＞

- ・造幣局移転後の防災公園、地域冷暖房、ガス中圧管、雨水貯留施設を活用して都心型スマートシティのモデルをつくることできる
- ・清掃工場が近接しており、将来的には未利用エネルギーとして活用することも検討すべき

＜地域コミュニティについて＞

- ・地域区民ひろばは、多世代交流の拠点としての可能性をもっている

現行都市マスにおけるまちづくりの目標と課題

●まちづくりの目標

～多彩な魅力があふれる副都心～

商業・業務、行政の中核としての発展はもちろん、ファッション、情報、交流等の新しい機能を積極的に導入し、多彩で魅力的なまちの形成をめざします。

●まちづくりの主な課題

- ①区を中心とするまちの形成（副都心機能の充実）
- ②歩きやすく楽しいまちの形成（魅力あるアメニティ空間の形成）
- ③環境に配慮するまちの形成（資源の有効利用）
- ④安全で快適なまちの形成（道路基盤等の整備）

区民ワークショップの開催

地区における主なまちづくり事業の進捗状況

- 東池袋4・5丁目地区
 - ・昭和58年度に、「居住環境総合整備事業」に承認され、まちづくりセンター、防災ミニ広場等の施設整備や建て替え等を進め、現在も事業が継続中
- 南池袋2丁目
 - ・平成10年に「防災生活圏促進事業」が承認され、民間井戸改修、南池ふくろうひろばの整備を進め、平成19年度に事業完了
- 池袋駅の東西を結ぶ連絡デッキ広場の建設やグリーン大通り周辺の地下の有効利用
 - ・平成19年度に「池袋駅及び駅周辺整備検討委員会」を設立し、平成20年度に区及び関係事業者等による詳細な調査検討を実施
- 区庁舎・公会堂の周辺
 - ・平成26年度以降、現庁舎周辺区道・中池袋公園の整備が進む予定
- 豊島清掃工場および健康プラザとしまの周辺地区
 - ・清掃工場等の熱源の効率的な利用を調査・検討中
- 造幣局の移転・既存施設の集約化
 - ・平成29年度以降、防災公園・市街地整備が進む予定
- 東池袋4丁目地区
 - ・平成20年1月に東池袋四丁目地区、平成23年1月に東池袋四丁目第2地区が事業完了
 - ・補助175号線の街路整備は、平成23年5月27日に整備が完了
- 環状5の1号線
 - ・都電荒川線学習院下電停付近～東池袋交差点までの区間（約1.4km）を地上2車線の平面構造、地下2車線の掘割及びトンネル構造で整備する計画になっており、現在、地下道路整備に着手
- 時習小学校および日の出小学校跡地
 - ・時習小学校の跡地は、帝京平成大学の池袋キャンパスとして利用。
 - ・日の出小学校の跡地は、平成26年度に新庁舎が竣工予定

区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針（全体構想）への主な反映事項

- みどりは新たに整備するだけでなく適正な維持管理が重要
- 多世代が交流できる拠点としての地域区民ひろばの活用

区民WSを踏まえた、これからのまちづくり方針検討のポイント

- ①回遊性の創出
 - ・グリーン大通りをにぎわいの骨格として形成
 - ・新庁舎地、現庁舎地周辺まちづくりによる新たなにぎわい拠点の形成
 - ・新たな公共交通の導入検討
 - ・わかりやすい案内表示やサインの充実
- ②防災性の向上
 - ・帰宅困難者対策（平常時は交流空間、災害時は一時滞留施設）
 - ・造幣局移転後での防災公園整備（自立分散型エネルギー施設の導入検討など）
- ③みどりの充実
 - ・駅前人間中心で緑豊かな空間として形成
 - ・地域のみどりの拠点としての新庁舎の整備
 - ・にぎわい創出や交流空間としての公園の活用
- ④低炭素型都市づくり
 - ・地域冷暖房の活用
 - ・未利用エネルギー源としての清掃工場の活用
 - ・都心型スマートシティとしての形成

池袋西地区

現行都市マスにおけるまちづくりの目標と課題

- まちづくりの目標
～文化をはぐくむ副都心～
商業・業務、行政の中核としての発展はもちろん、立教大学や東京芸術劇場等の文化機能を拠点にファッション、情報、交流等の新しい機能を積極的に導入し、魅力的なまちの形成をめざします。
- まちづくりの主な課題
 - ①区の文化の中心地の形成（副都心機能の充実）
 - ②歩きやすく楽しいまちの形成（魅力あるアメニティ空間の形成）
 - ③環境に配慮するまちの形成（資源の有効利用）
 - ④副都心のオアシスづくり（拠点の新たな整備）
 - ⑤不燃化を進めるまちの形成（防災性機能の維持・向上）

区民ワークショップの開催

地区における主なまちづくり事業の進捗状況

- 環状6号線
 - ・中央環状新宿線の開通（平成19年12月）の後に工事に着手し、平成24年3月に供用開始
- 補助172号線沿道
 - ・補助172号線は、補助73号線～環状6号線の区間について、東京都により完了期間宣言がされ（平成21年度）、平成23年3月より供用開始
 - ・立教大学を含む補助172号線沿道の地区において、立教大学南地区地区計画が平成15年1月に都市計画決定済
- 補助173号線沿道
 - ・池袋二丁目～池袋三丁目の区間について、現在整備中
 - ・補助173号線沿道周辺において、補助173号線周辺地区地区計画が平成17年1月（平成19年1月変更）に都市計画決定済
- 池袋駅東西連携
 - ・平成19年度に「池袋駅及び駅周辺整備検討委員会」を設立、平成20年度に池袋駅地区における短期・中期・長期の整備事業項目ごとに区及び関係事業者等による詳細な調査検討を実施
- 大明小学校跡地
 - ・みらい館大明として活用中。地域サークルを中心に施設を貸出

区民ワークショップにおける主な意見

- <まち全体のイメージについて>
 - ・住んで楽しいまち
 - ・居住者も満足できる「住んで良し」のまちを目指すことが重要
- <活性化のあり方について>
 - ・子供（子育て世代）を呼び込むまちづくり
 - ・地域が中心となったボトムアップ型のまちづくり
- <改善地区について>
 - ・行政による補助などによる密集市街地の改善の仕組みづくり
- <立教大学とまちづくり>
 - ・立教大学を生かした文教都市のPR
 - ・IT産業の誘致や立教大学と連携したまちづくり
 - ・立教大学を軸としたまちづくり
 - ・立教大学の学生を中心とした活動を生かしたまちづくり
- <谷端川緑道周辺のまちづくり>
 - ・谷端川を生かしたにぎわいによる商店街の活性化
 - ・谷端川緑道は、みどりの空間としても、道路としても不十分であり、緑道空間も含めて道路としての機能を高める必要がある
- <池袋駅周辺について>
 - ・乗降客数の多さを周辺地域へ引き込むまちづくり
 - ・劇場通り沿いには文化・芸術の彩りを出すためにも、アートギャラリーや芸術系の個店等を誘致し、東京芸術劇場と一体となった文化・芸術の軸にしてはどうか
- <みどりについて>
 - ・みどり豊かなまちづくり
 - ・人が集まる公園づくり
 - ・みどりと花をあるべき場所に作り、適切に管理することが大事
- <地域イベントについて>
 - ・都市の広場を活用したイベント、取り組み
- <道路・鉄道について>
 - ・補助73号線、補助173号線の早期整備
 - ・LRTの整備による東西の連携
- <自転車について>
 - ・駅周辺への乗り入れ規制
 - ・商業施設など民間による駐輪場の整備への行政のバックアップ
 - ・シェアサイクルの導入

区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針（全体構想）への主な反映事項

- 地域防災対策の一層の強化（帰宅困難者対策、防災機能強化、密集市街地改善）
- 池袋副都心の機能強化
- 文化芸術の情報発信
- 質の高いみどりの創出

区民WSを踏まえた、これからのまちづくり方針検討のポイント

- ①立教大学を生かしたまちづくりの推進
 - ・レンガ・ツタなど立教大学の特色を生かし、周辺と一体となった景観づくり
 - ・立教大学と町会が協働で進めるまちづくり
- ②池袋副都心の機能強化
 - ・東京芸術劇場の立地を生かし、文化・芸術の彩りを感じられる個店等の誘致
 - ・池袋駅東西の連携強化
 - ・池袋駅の利用客を周辺地域へ引き込む魅力づくり
- ③防災まちづくりの推進
 - ・生活道路網の整備、不燃化の推進
 - ・補助173号線の整備と沿道まちづくり
- ④質の高いみどりの創出・活用
 - ・人が集まれる質の高い公園づくり
 - ・みどり豊かなまちづくり
 - ・谷端川緑道を生かしたにぎわいづくり
- ⑤安全・安心な歩行空間の形成
 - ・官民協働による駐輪場の整備
 - ・歩行者空間と自転車走行空間の分離
 - ・シェアサイクルの検討

雑司が谷地区

現行都市マスにおけるまちづくりの目標と課題

- まちづくりの目標
～歴史と文化に包まれたまち～
歴史と文化に恵まれ、閑静でうおいのある当地区は、これらの保全につとめるとともに防災性の強化や住環境の改善を地区住民とともにすすめ、安心して住み続けられるまちの形成をめざします。
- まちづくりの主な課題
 - ①歴史を醸し出す落ち着いたまちの形成
(閑静な住環境の保全)
 - ②地区にふさわしい街並みの誘導
(新しい都市基盤の整備と街並み形成)
 - ③不燃化をすすめるまちの形成
(防災機能の維持・向上)

区民ワークショップの開催

区民ワークショップにおける主な意見

- <まち全体のイメージについて>
 - ・情緒あふれた寺社仏閣・みどりが多く、地域に分散
 - ・地元住民の憩いの場となる公園が多い
 - ・雑司が谷地区の魅力である都電が走る風景
 - ・魅力ある細い路地や古い街並みが残る
 - ・年配者が多いまち
- <雑司ヶ谷霊園について>
 - ・数多くの著名人、文化人の墓がある雑司ヶ谷霊園
 - ・歴史散策など、多くの人が来街する慣れしんだ場所
 - ・災害時の避難場所として安心感がある
 - ・住民の集いの場としての雑司ヶ谷霊園
- <雑司が谷駅について>
 - ・副都心線の開通により利便性が向上
 - ・地区外からの若いファミリー層の移転が多い一方、若いファミリー向けの住宅が不足
 - ・自転車利用に対応した駅周辺への駐輪場の整備が必要
 - ・七福神巡りなど雑司が谷地区の案内板の設置が必要
- <住宅地について>
 - ・狭あい道路が多く、住宅が密集しており、防災上問題がある
 - ・災害時における避難を誘導する案内板の設置が必要
 - ・老朽化した建物の解体を補助するしくみづくり
- <日本女子大の移転（西生田から目白へ）について>
 - ・日本女子大の一部の学部が移転してくることによる人の流れの変化を活かしたまちづくり
 - ・古い建物をリニューアルした学生用住宅の整備
- <環5の1周辺に関して>
 - ・大鳥神社と都電が走る景観が崩れない建築物の高さ誘導が必要
 - ・都電と環5の1が一体となった道路景観の形成
 - ・環5の1の緑化が必要（住民の努力による緑化も進める）
- <みどり>
 - ・「つくるみどり」と「守るみどり」を分けて考えていく必要がある、まずは今あるものをなくさないようにすることが大事
 - ・みどりを管理や保存のルールづくりは課題が多い。欲しいというだけではだめで、住民も協力していく必要がある
- <その他>
 - ・学生が安全に遊べる場所の確保
 - ・南池袋第二公園の防犯面の向上（道路から公園の中が見えない）
 - ・南池ふくろうひろば児童遊園へのトイレの設置
 - ・並木ハウスを観光資源として活用

区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針（全体構想）への主な反映事項

- 地域防災対策の一層の強化（防災機能強化、密集市街地改善）
- 生活拠点（雑司が谷駅周辺地区）の機能強化
- 都電を生かした景観形成
- みどりの保全・創出

区民WSを踏まえた、これからのまちづくり方針検討のポイント

- ①防災まちづくりの一層の推進
 - ・生活道路網の整備、不燃化の推進
 - ・環状5の1号線の整備と沿道まちづくり
 - ・老朽建築物の除去
- ②都電を生かした景観の形成
 - ・環状5の1号線と都電が一体となった景観づくり
 - ・都電沿線（環状5の1号線沿道）の建物の高さ規制による街並みづくり
- ③みどりの保全・創出
 - ・雑司ヶ谷霊園、寺社仏閣、日本女子大学生寮のみどりの保全
 - ・都電沿線（環状5の1号線沿道）の緑化
- ④地域資源を生かした回遊性の向上
 - ・歴史散策など雑司が谷駅周辺での案内板の設置
 - ・地域資源を生かした散策ルートづくり
- ⑤生活拠点としての雑司が谷駅周辺地区の機能強化
 - ・駐輪場の整備
 - ・雑司が谷駅周辺の案内板の設置
 - ・生活関連機能の誘導（若いファミリー層への対応）

地区における主なまちづくり事業の進捗状況

- 雑司が谷3丁目及び南池袋3丁目
 - ・ハード・ソフトの両面から防災まちづくりを進め、防災生活圏を形成する防災生活圏促進事業が平成19年度に終了
- 雑司が谷墓地周辺地区
 - ・防災上重要な避難地、避難路の周辺を「不燃化促進地域」に指定し、不燃化を促進する「都市防災不燃化促進事業」が平成15年度に終了
- 環状5の1号線沿道
 - ・環状5の1号線沿道周辺において、環状5の1号線周辺地区地区計画が平成15年11月に都市計画決定済
 - ・平成20年6月に東京メトロ副都心線が開通
 - ・平成23年4月の都市計画変更を経て、都電荒川線学習院下電停付近～東池袋交差点までの区間を地上2車線の平面構造、地下2車線の掘割及びトンネル構造で整備する計画になっており、現在、地下道路整備に着手
- 雑司が谷小学校跡地
 - ・50年間の定期借地権設定契約で、共同住宅や福祉施設による複合施設“オリナス ふくろうの杜”として利用中
- 高田小学校跡地
 - ・現在、施設開放中。将来的には、防災機能を有する近隣公園として整備予定

高田地区

現行都市マスにおけるまちづくりの目標と課題

●まちづくりの目標 ～産業と生活を育むまち～

山吹の里の碑や社寺が連なる旧鎌倉街道および桜並木や染物工場、風情を伝える神田川などがあるこの地区は、これらの歴史や自然のある暮らしと各種産業が調和したまちの形成をめざします。

●まちづくりの主な課題

- ①住宅地に調和した都市型産業の活気のあるまちの形成（各種機能の調和）
- ②坂と川がある景観を大切にしたいまちの形成（美しい環境の保全）

地区における主なまちづくり事業の進捗状況

●環状4号線

- ・新目白通り交差点（新宿区内）から日本女子大学付近（文京区内）までの区間で事業中
- ・高田一丁目地区内の環状4号線周辺地区において、環状4号線周辺地区地区計画が平成17年に都市計画決定

●環状5の1整備に伴う地下鉄13号線の早期開通

- ・地下鉄13号線（東京メトロ副都心線）は、平成20年に開通
- ・将来、東池袋四丁目市街地再開発事業の進捗による相当の利用客が見込めるようになった時期に、東池袋地区への新駅設置のための工事を行うこととする確認書を豊島区と東京地下鉄株式会社との間において締結
- ・環状5の1整備については、都電荒川線学習院下電停付近から西池袋交差点までの区間のうち地下道路については整備に着手

区民ワークショップの開催

区民ワークショップにおける主な意見

<まちづくりの目標について>

- ・人口減少・少子高齢化を見据え、産業に重きを置くのではなく、安全・安心に重きを置いたまちづくり
- ・落ち着いた住環境や緑・坂・神田川などの良好な景観資源を活かしたまちづくり

<住環境について>

- ・坂での手すりの設置など、バリアフリーの充実による高齢者が住みよいまちづくりが必要
- ・集合住宅居住者の町会加入をルール化するなど、地域コミュニティの活性化が必要
- ・住環境を守るために、地区計画制度の導入検討も含め、当該地区における準工業地域のあり方を検討することが必要
- ・宅地細分化を防ぐことに十分配慮することが必要

<産業・商業について>

- ・放射7号線（新目白通り）沿道において、商業機能の誘導による活性化を検討してもよいのではないか
- ・地域内へ産業を呼び込む場合、狭小道路の改善が必要

<防災・防犯について>

- ・空き家等の増加により、防災・防犯面での対策が必要
- ・ゲリラ豪雨などによる水害への配慮が必要
- ・防災機能を備えた公園・広場が必要

<みどりについて>

- ・街路樹や並木などのみどりの維持や適切な管理が必要
- ・集合住宅建設時に、オープンスペースを設けなどゆとりある地域環境を確保することが必要

<道路・交通環境について>

- ・急な坂などにおいて、高齢者に配慮した安全・安心な道路整備が必要
- ・地区内の狭小道路等について、安全な道路環境の整備・改善が必要
- ・生活道路と幹線道路の接続箇所について、安全性や渋滞等への配慮が必要

<雑司ヶ谷駅及び駅周辺の環境について>

- ・高田地区の住民にとっては利用しづらい
- ・駅開業による周辺への波及効果があったようには思えない
- ・千登世橋教育センターなどの公共施設の管理運営を、もっと民間に委託すべき

区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針（全体構想）への主な反映事項

- 地域防災対策の一層の強化（防災機能強化）
- 住環境の維持・向上（狭あい道路の改善）
- 安心・安全な道路環境の整備
- 自然や地形を活かした景観の形成
- 都市マス進行管理の仕組みの確立

区民WSを踏まえた、これからのまちづくり方針検討のポイント

- ①人口減少・少子高齢化を見据えたまちづくりの推進
・急な坂道などにおいて、高齢者に配慮した道路環境のバリアフリー化
- ②安全・安心な道路の整備推進
・急な坂道などにおいて、高齢者に配慮した道路環境のバリアフリー化
・狭あい道路の改善
- ③落ち着いたある住環境の維持・向上
・地区計画など住環境維持のためのルール化の検討
- ④自然や地形を活かした景観形成
・神田川、のぞき坂、宿坂などの自然や地形を生かした景観による魅力づくり
- ⑤防災まちづくりの一層の推進
・防災機能を備えた公園・広場の整備促進

目白地区

現行都市マスにおけるまちづくりの目標と課題

●まちづくりの目標

～みどり豊かで格調のあるまち～

閑静な住宅地を中心に落ち着いた暮らしができる街並みの保全をはかるとともに、都会的センスのある活気あふれる拠点の形成をめざします。

●まちづくりの主な課題

- ①閑静で暮らし良いまち（良好な住宅地の保全）
- ②洒落た駅前のあるまち（拠点の再整備）
- ③みどりの拠点がある安全・安心なまち（防災機能の維持・向上）

区民ワークショップの開催

区民ワークショップにおける主な意見

<敷地の細分化について>

・敷地が細分化し、それに伴う形で宅地内の緑の量も減少

<目白駅周辺のイメージについて>

・刺激的な池袋の街とは違ったイメージを持っていることが目白駅周辺の街の魅力

<教育文化関連の機能集積について>

・教育文化関連施設が多いことを生かし、街の活性化につなげていけると良い

<散策について>

・魅力的な施設が点在しており、散策を楽しむことができる街になっている

・散策マップは、これまでも数多く作られているが、認知度がいま一つであるなど、有効に活用されていない

・歩道に休憩スペースを設けると、まちを歩く人や高齢者が助かる

<学習院大学について>

・大学敷地をオープンスペースとして活用することや、子育て世代の交流の場などとして活用していくことについて、行政から大学に働きかけてほしい

・学習院大学は緑が豊かで、春には地域の人桜を見に来たりもするが、依然として入りにくいという声もある

<情報発信・地域交流の場について>

・目白地区のイベントや地区のアピールを行う情報発信の場が必要

・地域区民ひろばの設置と合わせて、地域の情報を発信できるような機能が導入されると良い

・情報発信の場としては駅を活用することも重要

・地域交流のためのスペースについては、民間活力を活用して確保するという視点も重要

<公園について>

・子育て世代の視点では、目白地区には自由に遊ぶことができる公園が不足

・空き地を地域のコミュニティガーデン的な空間とするような工夫も考えられる

・地域のシルバー人材が、子ども達に色々なことを教える場にもなれば世代間交流の場にもなる

<防災について>

・町会と住民の議論が少ないこと、また、学生と町会との係りが少ないことが課題

・「町会」によって防災に対する動き方は異なっている。熱心に取り組んでいる町会もある

<地域コミュニティについて>

・ワークショップ等への参加を促進するためには、ある程度テーマを絞り込むことが重要

・まちづくりにも、ICTやスマートシティなど新しい概念を取り入れていくことが重要

・ハードを用意するだけでなく、交流を生み出す仕掛けや仕組みづくりが必要

・交流には、場所、プログラム、人材の3つの要素が必要

区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針（全体構想）への主な反映事項

- 都市開発とあわせた地域交流空間の創出（民間活力の活用）
- ICTやスマートシティなど新しい技術・システムのまちづくりへの導入
- 地域区民ひろばの情報発信機能の強化

区民WSを踏まえた、これからのまちづくり方針検討のポイント

- ①落ち着いたにぎわいのあるまち
 - ・池袋とは違った目白独自の地域イメージの活用
 - ・教育文化関連施設の集積の活用
- ②文化的資源を生かした回遊性の向上
 - ・点在する文化的資源を結んだ散策ルートの設定
 - ・歩行者と自動車が共存した道づくり
 - ・散策マップなどによる魅力の情報発信
 - ・目白駅での地区の魅力の情報発信
 - ・ベンチ等の休憩できるスペースの確保
- ③みどりの保全と創出
 - ・学習院大学の緑の保全
 - ・宅地内の緑の保全
 - ・広々とした公園などオープンスペースの充実
- ④大学と地域の連携
 - ・地域交流の拠点としての大学の活用
 - ・地域と大学の交流・連携によるコミュニティの活性化

地区における主なまちづくり事業の進捗状況

●補助 73 号線

・事業未実施

●環状 6 号線（山手通り）の拡幅

・豊島区管内の環状 6 号線の街路整備は、中央環状新宿線の開通（平成 19 年 12 月）の後に工事に着手し、平成 24 年 3 月 13 日に供用を開始

●学習院大学周辺

・目白駅周辺地区地区計画は、周辺の教育施設との調和を図りつつ、良好な駅前空間の整備と活力ある複合市街地の形成を目指すとしている

●目白駅及びその周辺

・目白駅東駐輪場と目白駅北駐輪場が平成 14 年に、目白駅西駐輪場が平成 15 年に整備。

・目白駅周辺地区地区計画は、周辺の教育施設との調和を図りつつ、良好な駅前空間の整備と活力ある複合市街地の形成を目指すとしている

●西池袋 2 丁目の長崎道踏切

・平成 17 年に長崎道踏切が廃止され、花のはし（屋外エレベーター付き歩道橋）が整備

高松・要町・千川地区

現行都市マスにおけるまちづくりの目標と課題

●まちづくりの目標

～閑静でのびやかな暮らしのまち～

道路が整備された良好な住宅地の環境を保全するとともに、地区に根ざした商店街との調和、防災性の向上をはかり、のびやかで暮らしやすいまちの形成をめざします。

●まちづくりの主な課題

- ①みどりあふれる閑静なまちの形成(良好な住宅地の保全)
- ②歴史ある商店街と新しい商業地が調和するまちの形成(商業の活性化)
- ③安全・安心で快適なまちの形成(防災性の向上)

区民ワークショップの開催

地区における主なまちづくり事業の進捗状況

●環状6号線(山手通り)

・豊島区管内の環状6号線の街路整備は、中央環状新宿線の開通(平成19年12月)の後に工事に着手し、平成24年3月13日に供用を開始

●千川小学校跡地

・高齢者福祉施設及び保育園、公園を整備(開設は、平成27年度を予定)

●補助26号線(千川通り)

・南長崎六丁目地内の補助229号線との交差部以南と、長崎六丁目地内の補助172号線との交差部から千早四丁目南部までの区間以外は未完成
・現在、要町三丁目の放射36号線以北で事業が実施

区民ワークショップにおける主な意見

<要町通り・えびす通り>

- ・要町通りは道路が整備されたものの、賑わいや活気がなくなってしまった
- ・えびす通りも、閉店する商店が増えた
- ・商店街での買い物では会話など人と人の触れ合いがある
- ・集合住宅に引っ越してきた人は、商店街で買い物をせず、池袋に行っている

<住環境について>

- ・相続税が高いため、土地の細分化やマンションの建設を防ぐことが難しい
- ・敷地が小規模化する傾向に対しては、一步踏み込んだ対策が必要
- ・土地の細分化に伴い緑の量も減少
- ・池袋に近い、戸建を中心とした良好な住宅環境は子育て世代にアピールできる

<地域コミュニティについて>

- ・マンションは人口の増加につながるが、マンションの住民と顔を合わせる機会がない
- ・人々を町会活動等に参加させる仕掛けが必要
- ・子供を対象としたイベントは、親世代の町会活動等への参加を促す

<防災について>

- ・要町・高松は、狭い道が多く、緊急車両が全く入れない場所が多い
- ・日常の安全も脅かされている
- ・建て替えと合わせた狭い道路の拡幅は、状況が改善するまで何年かかるかわからない

<地域の魅力資源について>

- ・旧千川上水沿いには桜並木が今も残っており、今後も維持していきたい
- ・旧千川小学校にも桜があり、旧上水沿いの桜並木と一体的な空間を形成

<地域交流の拠点となる空間や施設について>

- ・旧千川小学校跡地には、複合施設ができるが、町会イベントの用地として使えるかが心配
- ・大きな公園がなく、いくつかある公園も規模が小さすぎる上に、使い方に規制が多い
- ・小さな公園しかなく、また、暗い雰囲気の子供たちが使っていない状況
- ・区民ひろばは、目的をもって集まる人にとっては、便利だが、そうした活動に参加できない高齢者等が、休憩したり歓談できたりする場所がなくなってしまった

<都市計画マスタープランについて>

- ・都市計画マスタープランの策定後に、どのような取組みが実施され、何がどう変わったがわかるようにすることが重要
- ・都市計画マスタープランの策定で議論されたことが、関係する人たち伝わるような仕組みが重要

区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針(全体構想)への主な反映事項

- 都市計画マスタープラン策定後の進捗管理と公表の仕組み
- 都市計画マスタープランの認知度向上
- 都市づくりの方向性を関係者で共有できる仕組みづくり

区民WSを踏まえた、これからのまちづくり方針検討のポイント

- ①良好な住環境の保全
 - ・戸建を中心とした良好な住宅環境の保全(敷地の細分化の防止の検討)
 - ・子育て世代にアピールできる住環境の形成
- ②木造住宅密集地での防災性の向上
 - ・建て替えと合わせた狭い道路の解消
 - ・行き止まり道路の解消やオープンスペースの確保による住環境の改善
- ③地域交流の拠点の充実
 - ・集合住宅に転居してきた新住民と、既存の地域コミュニティとの交流の機会・場の充実
 - ・千川小学校跡地では、地域活動の拠点となる広々とした公園を整備
 - ・高齢者が気軽に集うことができる居場所づくり
 - ・地域の交流空間としての商店街の再生・活性化

長崎・千早地区

現行都市マスにおけるまちづくりの目標と課題

- まちづくりの目標
～街角にうるおいのある暮らしやすいまち～
駅前をはじめとする活気と親しみのある商店街、公園や広場のみどりの保全、住宅地の緑化へのとりくみ等のきめ細かな配慮をして、うるおいのある良好な住環境の形成をめざします。
- まちづくりの主な課題
 - ①歩いて楽しく美しいまちの形成
(アメニティ豊かな住宅地の保全・形成)
 - ②庶民的な暮らしやすいまちの形成
(生活拠点の整備)
 - ③安心・安全で快適なまちの形成
(防災性の向上)

区民ワークショップの開催

区民ワークショップにおける主な意見

- <補助 172 号線などについて>
 - ・地域住民の利用を考慮した人や自転車が使いやすい道路づくり
 - ・防災性だけでなく、まち全体を考えた道路づくり
 - ・道路整備にあたっては、景観の統一、建物高さの制限、敷地規模の制限などの検討が必要
 - ・住民がよく利用する私道の管理の向上
 - ・道路沿道や、駅周辺を商店街と住民がふれあえるような場所として活用し、地域の活性化につなげたい
- <公園について>
 - ・公園を整備するにあたっては、防犯上のためにも出入口を2か所設けることが必要
 - ・千早フラワー公園は、休める場所の確保として木陰ができる樹木の設置が必要
 - ・貴重なみどりとしての長崎公園、小鳥がさえずる公園の活用
 - ・長崎5丁目児童遊園は、桜を生かした地区のイベント拠点として活用されており、他の公園にも桜の植樹によって豊島区ならではの特徴を付けることが必要
 - ・公園の使いかたに制約が多すぎ、何のための公園であるのかが分からない。各公園の機能をはっきりとさせて設置するべき
- <住宅について>
 - ・子育て世代が入居しやすい住宅づくり
 - ・安全性や防災性を高めるため、老朽化した空家の撤去が必要
 - ・ミニ開発増加に伴う景観への配慮
 - ・無電柱化ができない場所については、電線を直角に張るなど、無秩序に張られた状況の改善が必要
- <公共施設について>
 - ・地区の住民が利用しやすい公共施設の配置、整備
 - ・旧第十中学校をスポーツができる施設として活用
 - ・高齢者だけでなく、子育て世代にも配慮した公共施設の運営が必要
- <駅周辺について>
 - ・要町駅におけるバリアフリーの向上
 - ・東長崎駅での賑わいを向上
- <環境について>
 - ・住民の意識啓発も含めたゴミ対策の改善が必要
 - ・ゴミの回収の仕方(時間帯含む)の改善が必要

地区における主なまちづくり事業の進捗状況

- 環状 6 号線
 - ・中央環状新宿線の開通(平成 19 年 12 月)の後に工事に着手し、平成 24 年 3 月に供用開始
- 放射 26 号線
 - ・「特定整備路線」として平成 32 年までに整備。併せて沿道まちづくりを進める
- 補助 172 号線
 - ・「特定整備路線」として平成 32 年までに整備。併せて沿道まちづくりを進める
- 北西部の学校等が隣接する区域
 - ・平成 16 年 3 月に廃校となった第十中学校の跡地は、現在、校庭と庭球場のみを施設開放中。将来的には、サッカー、ラグビー等の多目的な競技に対応した野外スポーツ施設を整備予定
- 千早中学校の跡地
 - ・平成 18 年 4 月に旧第十中学校と千早中学校の統合による明豊中学校の新校舎として活用

区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針(全体構想)への主な反映事項

- 地域防災対策の一層の強化(防災機能強化)
- 住環境の維持・向上(狭あい道路の改善)
- 生活拠点(椎名町、東長崎駅周辺地区)の機能強化
- 建物の高さ制限、敷地規模の制限
- みどりの保全・創出

区民WSを踏まえた、これからのまちづくり方針検討のポイント

- ①補助 172 号線の整備
 - ・補助 172 号線の整備と沿道まちづくり
 - ・地域が使いやすい歩道空間の検討(歩行者・自転車の空間分離など)
 - ・建物高さ制限、敷地規模の制限、景観の統一などのルールづくり(地区計画など)
- ②みどりの保全・充実
 - ・憩いの空間として質の高い公園の整備
 - ・利用しやすい公園の再整備
- ③安全・安心な住環境の維持・向上
 - ・地区計画など住環境維持のためのルール化の検討
 - ・狭あい道路の改善
- ④ふれあいによる地域の活性化
 - ・商店街の活性化
 - ・地域コミュニティの強化
- ⑤生活拠点としての椎名町・東長崎駅周辺地区の機能強化
 - ・駅前広場空間の活用
 - ・生活関連機能の誘導(病院、保育所等)
 - ・駐輪場の整備

南長崎地区

区民ワークショップにおける主な意見

<まち全体のイメージ>

- ・落ち着いた住環境に配慮しながら、防災のまちづくりを継続
- ・地区の歴史や資源・施設を活かした文化や健康・スポーツを特徴とするまちづくり
- ・高い交通利便性と駅周辺の商業集積を活かしたまちづくり
- ・学生などの若い年代が住みやすいまちづくり
- ・みどり豊かな住環境を活かしたまちづくり
- ・地域コミュニティが充実したまちづくり

<交通・道路について>

- ・狭い幅員の道路に通過する車を入らせないような仕組みづくり
- ・子供や高齢者、障害者が多く利用する公園や施設周辺の歩行者の安全性の確保
- ・西部区民事務所や千早図書館、各区民ひろば等の北側施設利用のためのコミュニティバス運行

<観光資源について>

- ・お休み処などの拠点、案内サイン、イベントなどの充実
- ・トキワ荘通りのイベント時などは、通りの自動車の規制が必要
- ・トキワ荘の活用は、周辺の住環境に配慮するとともに、新たな施設や駐車場等が必要
- ・トキワ荘の歴史の語り手が少なく、ソフト面の充実が必要
- ・歴史がある門や庭、屋敷等を観光や景観の資源として活用

<公園について>

- ・南長崎はらっぱ公園は、オープンスペースのイベント利用に加えて、更に有効活用が必要
- ・椎名町公園は、街灯の増設や利用マナーの向上が必要
- ・南長崎児童公園は、地域において草刈りなどの管理をしているが利用マナーの向上が必要
- ・南長崎スポーツ公園は、木陰ができる樹木の設置、街灯増設、周辺道路の安全性確保が必要

<コミュニティについて>

- ・小学校や区民ひろばなどを中心とした地域コミュニティの充実
- ・小学校と地域の団体など、地域の横のつながりが深いことをまちづくりに活用

<商店街について>

- ・商店街の維持・活性化に向けた支援
- ・宅配サービスなど地域の商店ならではのサービスの充実

<住宅地について>

- ・宅地内の緑の配置や適正な管理による緑豊かな住宅地の形成
- ・落ち着いた住環境を踏まえ生活道路整備や建替えを促進し、ゆっくと進める防災まちづくり
- ・安全性や防災性を高めるため、地元がまとまれば区画整理による一体的な改善も有効
- ・建替えや住宅整備までの空き家対策
- ・鉄道沿線における住環境に対する配慮

<駅周辺のまちづくりについて>

- ・駅利用の駐輪と商業施設利用の駐輪が混在しており、管理とマナーの徹底が必要
- ・自転車を利用しやすい商店街にすれば、周辺住民の利用も増加
- ・自転車置場等の駅関連施設における障害者や高齢者にとって使いやすい整備・管理
- ・駅周辺の踏切が混雑時に危険なため安全性の向上が必要

現行都市マスにおけるまちづくりの目標と課題

●まちづくりの目標

～活気あふれ、安全な暮らしができるまち～

買い物客でにぎわう商店街やコミュニティを活性化し、防災まちづくりをすすめ、にぎわいがあり安全に暮らすことのできるまちをめざします。

●まちづくりの主な課題

- ①災害に強いまちの形成
(防災性の向上)
- ②庶民的な暮らしやすいまちの形成
(生活拠点の整備)
- ③新しく展開するまちの形成
(新たな拠点の整備)

区民ワークショップの開催

地区における主なまちづくり事業の進捗状況

●都市計画道路環状6号線

- ・中央環状新宿線の開通(平成19年12月)の後に工事に着手し、平成24年3月13日に供用を開始

●都市計画道路補助26号線

- ・「特定整備路線」として、2020年(平成32年)までに整備することを目標に事業着手。特定整備路線の整備と合わせて沿道のまちづくりを進める

●落合南長崎駅周辺

- ・平成24年度にアイテラス落合南長崎、平成25年度に南長崎スポーツセンターが完成するなど、利便性の高い拠点として整備

●南長崎2・3丁目地区

- ・平成8年度の「居住環境総合整備事業」承認後、平成16年度の事業終了まで、用地取得2か所、1,533.76㎡(無償貸与216.96㎡)、施設建設3施設(南長崎二丁目児童遊園、南長崎花咲公園(拡張:第一期、第二期))、3棟の建て替えを実施

区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針(全体構想)への主な反映事項

- 駅利便性の向上(駐輪場の適正管理、周辺商店街の活性化、踏切の安全性の向上等)
- 文化・歴史、健康・スポーツ、潤いを活かしたまちづくり(トキワ荘通り周辺、公園、住宅地等)
- ゆとりある住環境の保全・充実(低層住宅地等)
- 公共交通の充実(区民施設や観光拠点等を結ぶコミュニティバス等)

区民WSを踏まえた、これからのまちづくり方針検討のポイント

①防災・防犯まちづくりの推進

- ・建替えにあわせた狭い道路の拡幅やすみ切りの整備、接道部や敷地内の緑化、空き家対策の強化、公園の利用マナーの向上、公園等の暗い箇所における街灯の設置などによる防災性や防犯性の向上

②椎名町駅・東長崎駅周辺の拠点の強化

- ・駅利便性の向上(駐輪場の適正管理、周辺商店街の活性化、踏切の安全性の向上等)
- ・鉄道利用と商業利用を明確にした駐輪施設の適正な管理と利用マナーの向上

③文化・歴史、健康・スポーツ、潤いの資源の活用

- ・商店街や地域の組織と連携し、トキワ荘や歴史的な資源などを活用した交流拠点や街並みの形成
- ・公園の樹木の適正な管理や敷地内の緑化等を図り、緑を生かした良好な住環境の形成
- ・健康・スポーツを特徴とした公園の活用や地域活動の促進

④公共交通の確保・充実

- ・主要な区民施設やトキワ荘通りの観光拠点などを結ぶ公共交通の確保・充実(西部区民事務所や千早図書館、各区民ひろばを結ぶコミュニティバスの運行等)

⑤良好な住環境の充実・向上

- ・住宅地内の幅員の狭い道路において通過する車の進入の抑制
- ・小学校や区民ひろば、地域の組織等の横のつながりが深いことを活かしたコミュニティの充実
- ・低層住宅地はゆとりのある低密の街並みを活かした緑豊かな住環境の保全・充実

拠点に関する意見交換結果

1. 駒込駅（東地区）	16
2. 巣鴨駅・西巣鴨駅（東地区）	16
3. 大塚駅・新大塚駅（東地区）	17
4. 北池袋駅・下板橋駅（北地区）	17
5. 池袋駅・東池袋駅（中央地区）	18
6. 池袋駅（南地区）	18
7. 雑司が谷駅・目白駅（南地区）	19
8. 大塚駅（南地区）	19
9. 要町駅・千川駅（西地区）	20
10. 椎名町駅（西地区）	20
11. 東長崎駅・落合南長崎駅（西地区）	21

駒込駅(東地区)

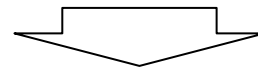
区民ワークショップにおける主な意見

<駒込駅の将来像について>

- ・駒込駅に商業機能があってもよいが、ショッピングモールを目指すわけではないと思う。
- ・駅ビル等の商業複合施設を誘致して、商業的な発展を目指すのか、それとも文教地区としての魅力を高めていくのかのどちらかと言えば後者である。
- ・いろいろな駅の個性があってよいので、大塚駅のような駅があれば、駒込駅のような駅もあってよい。
- ・商店街(駒込銀座通り)との連携を考えると、東側の交通結節機能が弱い。
- ・単なる交通広場を整備するというのではなく、駅前にはベンチなどをおいた、ゆったりとした交流スペースを整備する。
- ・人肌を感じられ、どこことなく囲まれているような感覚を味わうことができるような空間を整備する。
- ・駒込駅周辺がにぎわい拠点というよりも、にぎわい拠点はむしろ地区内にあるので、駅には情報発信機能が求められる。
- ・地区の魅力を案内するような地図があると良い。
- ・地域の中に広がる魅力的な資源を連携させ、それらを地区の玄関として紹介することができるような駅にする。
- ・駒込地区が、ちょっと降りてみようかなと思えるような、ゆったりとした空間を提供できるような地区になれると良い。

<安全で安心な街>

- ・地区の活性化を考える上では、安全・安心は重要な要素である。
- ・例えば、防犯カメラ等を設置して、地区の内外に安全で安心な街であることをアピールすることが考えられる。
- ・安全ということ言えば、駒込地区は坂が多く、自転車が猛スピードで走っている。
- ・自転車マナーの徹底を地区として取り組んでいくことが重要である。歩道では自転車を押して歩くなどの配慮も必要である。
- ・歩道が狭いため、車椅子の利用者に不便である。
- ・コミュニティバスのバス停で、車椅子で待っていると、まるで通行を邪魔しているようで、居心地がよくない。
- ・ちょっとしたスペースがあるとありがたい。



区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針(全体構想)への主な反映事項

- 駅関連の交通基盤・施設の強化
 - ・交通広場など交通結節機能の強化(駅東側)
- 生活拠点としての利便性・快適性の強化
 - ・駒込地区の特性(歴史文化など)を活かした空間整備、ベンチの設置や緑陰空間の形成などによる集いの空間の整備、駒込地区の魅力の情報発信、歩行者中心のまちづくり、自転車利用のマナー向上(地区全体として)、車椅子でも安全に安心して通行できる歩行空間整備(駅への動線も含む)

巣鴨駅・西巣鴨駅(東地区)

区民ワークショップにおける主な意見

<巣鴨駅の交通機能について>

- ・巣鴨駅北口の都営三田線の入り口付近は、通勤通学の時間は両利用者が通るので、特に混雑することもある。常にごちゃごちゃしていると思う。
- ・JRの利用者と、都営三田線の利用者を分けるような道路整備の工夫が必要ではないか。
- ・バスは、駅まで来ないので、鉄道・地下鉄とバスとの接続がよくないと思う。
- ・駅周辺に、駐輪場が少ないと感じている。自転車を利用して駅または駅周辺商業施設を利用したい場合に不便である。
- ・駅にもう少し若い世代にとって魅力のある機能があってもよいのではないか。

<巣鴨駅周辺施設について>

- ・巣鴨駅周辺には、飲食店はあるが、ゆっくり時間を過ごしながらかしを出来るような店舗がないと思う。
- ・地域の住民が集えるような場所が現在はないので、あるとよい。
- ・交通網としては便利な路線が複数通っているので、駅前に保育所などの施設を誘導するなど付加価値を高めることで、駅や駅周辺の活性化が促されるのではないか。
- ・空き店舗を利用し、人々が集える場所を整備してはどうか。
- ・巣鴨への観光客が減っていると思う。
- ・巣鴨地域の活性化には、商店街との対話が必要であると思う。観光客に対しての商店街と住民のための商店街のバランスが重要ではないか。
- ・都営バス跡地をうまく活用することで、巣鴨地区の活性化につながるのではないか。
- ・跡地が今後どのように活用されるかわかるのであれば、次回のワークショップに示してほしい。

<西巣鴨駅について>

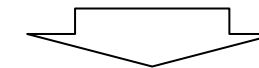
- ・西巣鴨駅は、駅から地上にあがってくるまでにエスカレーターなどがなく、使い勝手が悪い。
- ・また、周辺に買い物施設が巣鴨駅と比較して少ないため、魅力が少ないように感じられ、結果的に巣鴨駅の方が便利であるため、距離的に少し遠くても巣鴨駅を利用する。
- ・駅への交通手段は、徒歩が殆どで、自転車で来る人はほとんどいない。

<西巣鴨駅周辺について>

- ・朝日中学校跡地を、魅力ある空間として活用することができれば、地区の魅力を増やすことにつながり、もう少し人が来るようになるのではないか。

<その他>

- ・近隣の梁井霊園には、有名な方が埋葬されており、観光資源となるのではない。
- ・周辺地区全体にいえることだが気軽に利用できる公共のトイレが少ない。
- ・都市計画マスタープランの進捗の管理をしっかり行ってほしい。



区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針(全体構想)への主な反映事項

- 鉄道駅における交通結節性の一層の向上(バスとの接続、駐輪場の整備)
- 巣鴨駅周辺(交流拠点商業業務地)における魅力のある店舗の誘導
- 西巣鴨駅周辺(生活拠点商業業務地)における生活利便機能の充実
- 駅周辺における住民が交流できる場の創造
- まちづくりに役立つことの出来る空き店舗や跡地の利用の工夫

大塚駅・新大塚駅(東地区)

区民ワークショップにおける主な意見

<大塚駅と新大塚駅の関係性について>

- ・新大塚駅～大塚駅の往来が不便。両駅の関連性が少ない。動く歩道を作ってはどうか。
- ・同距離である池袋⇄サンシャインの往来ではあまり距離を感じない。物理的な距離ではなく、心理的な距離が問題なのではないか。

<大塚駅及び駅を周辺とした地区の回遊について>

- ・大塚駅の階段等のバリアフリー化は必要である
- ・サンシャイン等に近い大塚駅西口出口は必要である。
- ・大塚駅の改修工事によって、南北を繋げるコンコースができたことで、地域の分断が緩和された。
- ・駅の改修工事、区役所の移転によって、「大塚駅、新大塚駅、都電沿いで構成された南側回遊ゾーン」、「大塚駅北側の回遊ゾーン」、「大塚駅、新区役所、サンシャインで構成された東側回遊ゾーン」の3つの回遊ゾーンができるのではないか。

<大塚地区について>

- ・生活中心のまちをイメージしている。地元の人が好きになるようなまちになれば、来街者も魅力を感じるのではないだろうか。
- ・大塚には古い歴史がある。これらの地域資産・資源を掘り起こし、見える化し、活用できないだろうか。
- ・地元でまちの活性化について検討はしてきている。(まちづくりを考える組織あり) これまでに区に対して、要望書、提案書等を提出している。それらを掘り起こして利用していただけないか。
- ・都電沿線のバラ、阿波踊り、音楽祭など地域での取り組み、イベントは数多く開催されている。
- ・都電沿いのバラには外部からのボランティアも引き付ける魅力がある。
- ・南大塚にある天祖神社は鉄道ファンのメッカである。

<コミュニティについて>

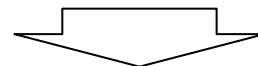
- ・マンションが増える一方で、町会などの地域コミュニティは若い人がいなくなるなど、衰退している。
- ・一方で、地域との繋がりが欲しくてもマンション住まいの場合では繋がりを作ることが難しい。
- ・都電沿線でのバラ管理のボランティアなど、まちに出てくるしかけを作り、それをまわす組織、仕組みがコミュニティ形成を促進していくのではないだろうか。
- ・回覧板を利用しない世帯が増えている。コミュニティが煩わしいと思う世帯もいるのではないか。
- ・コミュニティは色々レベルがあってよいが、災害時などを見越して、顔を知っているくらいのレベルは最低限必要である。

<交通・移動手段等について>

- ・導線としてのLRT新設が計画されている。現状の計画経路は「池袋→サンシャイン」であるが、大塚まで引っ張ってくることはできないだろうか。
- ・街路樹をどけて自転車レーンの整備することも1つの案でないだろうか。
- ・20～30年後の交通手段の変化等も考慮する必要があるのではないだろうか。

<その他>

- ・子どもを育てる施設をマッピングしてはどうか。
- ・巣鴨地区や文京区との連携も考える必要があるのではないか。



区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針(全体構想)への主な反映事項

○駅関連の交通基盤・施設の強化

- ・自転車レーンの整備、駅施設のバリアフリー化など

○交流拠点としての魅力や利便性の強化

- ・地域資産・資源を生かした回遊性の向上、地域コミュニティの活性化

北池袋駅・下板橋駅(北地区)

区民ワークショップにおける主な意見

<北池袋駅及び周辺について>

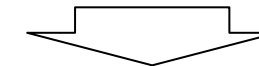
- ・池袋駅にも近く、東武東上線の北池袋駅等もあるので、交通の便が良い地域である。
- ・駅へのアクセスは不便な面があるので、駅に向かう道路などのバリアフリー化や安全対策を図ってほしい。
- ・駅周辺の商業集積が高まり、駅の利便性と拠点性が高まるまちづくりを進める。
- ・駅周辺等の自転車の路上駐輪が多く、狭い道路は交通の妨げになるなどの問題がある。
- ・地下駐輪場の設置など、適切な場所に駐輪させる工夫を行い、安全で快適な環境を作る。
- ・北池袋駅は、都市計画道路の整備に合わせて、駅前広場や駅へのアクセス道路など、一体的な整備を行ってほしい。
- ・北池袋駅周辺は、都市計画道路の整備に合わせて、歩行者や自転車の利用がしやすくなるようにしてほしい。駅周辺や商店街などは、駐輪場が少なく不便である。
- ・北池袋駅周辺の都市計画道路の整備について、鉄道との交差が地下になる場合は、歩道や自転車道への配慮、駅へのアクセスへの配慮が必要である。
- ・北池袋駅周辺は、かつて「銀座」があり栄えていたが、現在は、北池袋駅から池袋第2小学校にかけて、閉店した店舗が目立っている。
- ・上池袋一丁目、四丁目には、それなりに人口の集積があるため、需要があるにも関わらず、八百屋・魚屋などの生鮮品店がない。
- ・北池袋地区には商店街の店舗が少ないため、日用品の買い物などは、周辺地区のスーパーに行っている。駅周辺にミニスーパーなど、最低限の商業施設があれば便利だと思う。

<下板橋駅及び周辺について>

- ・駅関連施設のバリアフリー化を進めてほしい。
- ・駅周辺の商業集積が高まり、駅の利便性と拠点性が高まるまちづくりを進める。
- ・下板橋駅は、都市計画道路の整備に合わせて、駅前広場や駅へのアクセス道路など、一体的な整備を行ってほしい。
- ・下板橋駅周辺は、都市計画道路の整備に合わせて、歩行者や自転車の利用がしやすくなるようにしてほしい。駅周辺や商店街などは、駐輪場が少なく不便である。

<その他>

- ・商店街を中心にたばこの吸い殻のポイ捨てが多く、清掃活動を実施していても、すぐに捨てられてしまう。駅周辺や地域内に喫煙所を配置してほしい。



区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針(全体構想)への主な反映事項

○駅関連の交通基盤・施設の強化

- ・都市計画道路の整備と合わせた駅前広場、駅アクセス道路、駐輪場の整備など

○生活拠点としての利便性・快適性の強化

- ・駅関連施設の徹底したバリアフリー化、歩行者や自転車の安全性確保と自転車マナーの向上、駅周辺商業の活性化、駅周辺の喫煙所の設置と喫煙マナーの向上など

池袋駅・東池袋駅(中央地区)

区民ワークショップにおける主な意見

<池袋駅からまちなかへ>

- ・池袋駅は色々な面で圧迫感があり余裕がない。(東武や西武の地下街は、天井が低く圧迫感を感じる。) その結果、駅から外へ出ようという気生まれにくいのではないかと。
- ・池袋駅周辺の歩行空間も狭いところが多い。一方通行などの交通規制を踏まえながら、歩行空間を広げていくことも検討してはどうか。

<駐輪場について>

- ・池袋駅直近に、に大型の機械式駐車場(地下に自転車を収納するもの)をつくるべきである。
- ・池袋駅北口にある空き地を有効活用できないのか。(民有地)
- ・池袋駅前公園の駐輪場が使いやすくなった。

<池袋駅東西の回遊性について>

- ・東西の回遊性を高めるには、東西デッキの整備が重要である。地区別まちづくり方針の中に、東西デッキに関する記述ができないか。
- ・東西デッキができれば、東西だけでなく、置き去りにされがちな南北の発展・活性化にもつながる。
- ・東西デッキの上部を有効活用すれば、交通事業者も前向きになるのではないかと。

<池袋駅のサインについて>

- ・池袋駅は、地下が複雑であり、わかりやすい案内サインの設置が必要である。わかりやすい案内サインがないと、来街者が池袋を素通りしてしまう要因かもしれない。
- ・区と交通事業者が連携してわかりやすい統一した案内サインを検討していくことが大事ではないかと。

<地下道について>

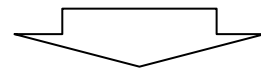
- ・人通りの少ない地下道は防犯面で懸念がある。
- ・池袋駅北口周辺の東西の地下連絡道が、ゲリラ豪雨で良く浸水する。

<造幣局跡地周辺について>

- ・軽トラ市などを実施し、高齢者などに食をふるまうなど活性化につなげる。
- ・造幣局での跡地開発にあわせて、サンシャイン周辺の狭い道路を解消し、ランニングコースとして整備をしてはどうか。このようなランニングコースを、健康のまちづくりに生かしていくとよい。

<その他>

- ・池袋の地盤沈下があるので投資効果が疑問である。地域側が声をあげて、バックアップしていないかと問題ではないかと。
- ・池袋駅周辺の公衆トイレは和式が多いが、お年寄りにはつらいので、洋式を増やすべきである。
- ・池袋駅前公園の改築にあわせ、ホームレスや野良猫の改善をしてほしい。



区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針(全体構想)への主な反映事項

○駅関連の交通基盤・施設の強化

- ・東西デッキの整備、わかりやすい案内サインの設置、駐輪場の整備など

○池袋副都心としての魅力向上

- ・池袋駅から池袋副都心へ人が流れるような施設の整備や地域活動
- ・健康まちづくりに向けた施設づくり

池袋駅(南地区)

区民ワークショップにおける主な意見

<駅の東西方向の移動について>

- ・現在、駅の東西を移動するためには、北口の地下道が1本あるのみである。
- ・南口の補助172号に階段のある通路があるが、車いすの人は移動できないため、わざわざ北口の地下道を使っている。このため、エレベータの設置が必要である。

<駅及び駅周辺の案内について>

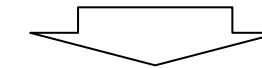
- ・池袋駅周辺には案内板が少なく、駅の中の案内もわかりづらい。地下通路もわかりづらい。
- ・地下街に人が少なく、怖い印象がある。地下街でのにぎわい創出が必要である。
- ・東口、西口、北口の出入り口もわかりづらい。
- ・池袋駅は地下なので、地上レベルで東西間の移動が可能な通路を百貨店などと連携して整備できないか。
- ・百貨店が閉まることで、通行できなくなる時間帯があるので、調整して通行可能な時間帯を拡大してほしい。

<南池袋公園周辺について>

- ・南池袋公園に隣接してラブホテルが2つ立地しており、子どもの教育環境上、よろしくない

<安全なまちづくりと回遊性の向上について>

- ・池袋駅周辺は、外から来た人から見ると「犯罪の多いまち」というイメージがある。このイメージを変える必要がある。
- ・西口は、「怖い、治安が悪い、汚い」という印象がある。公園の整備を含めてデザイン性のある空間になると変わってくると思う。
- ・グリーン大通りの夜は暗く、人通りも少ない。沿道に立地している金融機関も閉まって、街灯も暗い。
- ・むしろ、金融機関は2階に移り、1階部分は店舗として使えば、夜も明るくなるのではないかと。
- ・このような街並みが新庁舎までつながると良いと思う。
- ・新庁舎に隣接する街区でも再開発を期待したい。
- ・新庁舎にはレストランなどがあった方が、にぎわいの軸をつくる上で良い。
- ・新庁舎の上部の住宅に入居する人たちが、にぎわいの軸を回遊することで、雰囲気も明るくなる。
- ・グリーン大通りを安全でにぎわいのある軸として整備してほしい。



区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針(全体構想)への主な反映事項

○駅関連の交通基盤・施設の強化

- ・駅の東西を連絡する通路のバリアフリー化
- ・地上及び地下の案内・サインの充実

○池袋副都心としての利便性・快適性の強化

- ・にぎわいの創出を通じたイメージの向上(池袋は怖いイメージがある)、グリーン大通りでにぎわいの軸としての形成、新庁舎を核とした新たなにぎわい拠点の形成

雑司が谷駅・目白駅(南地区)

区民ワークショップにおける主な意見

<目白駅付近の交通結節機能について>

- ・駅の近隣に駐輪スペースが不足しているうえ、地下駐輪場は高齢者にとって使いづらい。
- ・目白駅からタクシー乗り場までが遠いほか、送迎のための駐車スペースがない。

<目白駅周辺の商業機能について>

- ・高級品が扱う店舗が多く、生活に密着する商品を買うことができる店舗が少ないのではないかと。
- ・駅周辺に生活に密着した店舗を充実させ、ファミリー世帯が住みやすい地区を目指すべき。
- ・大衆的な雰囲気やゆっくり食事、買い物できる店舗が少ないと感じている。小さな個人的なお店があるとよいのではないかと。
- ・住民であっても目白駅付近にどのような店舗があるのか、知らない住民が多いと思う。「ここにこれがある(買える)」といった情報の周知が必要なのではないかと。

<目白駅のまちづくりについて>

- ・文教地区のイメージ大切にしたいまちづくりを進めてほしい。

<雑司ヶ谷駅について>

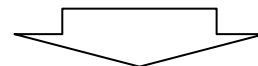
- ・雑司ヶ谷駅は、出口を入ってからホームまでが深くて利用しづらい。
- ・目白通り側の出口は、歩道を早いスピードで走る自転車が多く危険である。
- ・雑司ヶ谷駅の出口は、それぞれ出た先の街の雰囲気が全く違う。その違いと鬼子母神などの観光資源をうまく活用し、観光地としての機能を持たせてみてはどうか。
- ・商店街側の出口付近には、駐輪場があるが、設置場所があまり便利ではなく、使いづらい。

<雑司ヶ谷駅周辺の商業機能について>

- ・日本女子大学の学生や鬼子母神への観光客が駅を利用し、人の流れがあるにも関わらず、付近のお店があまり活性化していない。個々の店舗で頑張るのではなく、地域ぐるみで、商業の活性化を図る必要があるのではないかと。
- ・駅周辺に仕事帰りによって買物、食事ができるような店舗がほとんどなく、生活利便性が低い。
- ・商店街が衰退しているにも関わらず、店舗を維持してほしいという商店主も少ないのではないかと。

<雑司ヶ谷駅周辺の観光機能について>

- ・観光としての魅力を高めるため、鬼子母神の参道に賑わいが必要である。参道をきっかけに、駅周辺のにぎわいを創出させ、地域の活性化につなげていけるとよい。
- ・鬼子母神や雑司ヶ谷霊園など、江戸時代の古い街を知ることができる観光資源が多いと感じている。
- ・雑司ヶ谷駅付近には、地域のイメージアップ向上に頑張っているお店もあるので、地域全体で、歴史や文化を守る街にしてほしい。
- ・駅において案内版を設置するなど、地域、民間、行政が連携を図り、魅力ある地区にできるとよい。



区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針(全体構想)への主な反映事項

- 交流拠点としての魅力や利便性の強化(目白駅周辺)
 - ・駐輪スペースの利便性向上、交通広場の利便性向上(タクシー乗り場や送迎用自家用車の駐車スペース)
- 生活拠点としての魅力や利便性の強化
 - ・小売・飲食店等の生活利便機能の充実、地域資源を生かした観光まちづくり

大塚駅(南地区)

区民ワークショップにおける主な意見

<まち全体について>

- ・人が街に出たいと思うためには、まず駅を降りて飛び込んでくる風景がなにかを考えるべきである。
- ・駅の周りに溜まり空間やみどりが少ないため、街に出ようという気にならない。スペースはあるので、そうしたスペースを作るべきである。
- ・大塚の商店街には、女性がお金を使えるような店などがほとんどない。
- ・日常の買い物はわざわざ電車に乗ってまで行かないため、大塚で買い物をすることは少ない。
- ・大塚では阿波踊りのイベントを行っているが、同じく阿波踊りを行っている高円寺と連携するなどできないか。今年などは同日に開催していた。(高円寺のほうが集客力が強い気がする)
- ・大塚駅は周辺の駅と比較して特徴がない。
- ・面として活性化させていかないと、店が元気になっていかないのでは。商店街単独ではなく、沿線地域の主体が連携し、仕掛けていくべきである。

<大塚アトレヴィについて>

- ・アトレヴィができて、商店街に行く人が少なくなるのではないかと。
- ・アトレヴィは品揃えが十分でないため、集客力は小さいのではないかと。

<都電荒川線を活用した観光まちづくりについて>

- ・大塚は都電荒川線の乗換駅であり、それが強みであるが十分に認識されていない。
- ・江の島電鉄のように、電車に乗るのが目的となるような観光利用の掘り起こしが必要ではないかと。
- ・山手線の駅から乗れるという気軽さも強みであり、楽しみながら歩いてもらえるような仕掛けを連携して考えていく必要がある。
- ・JRや沿線地域も巻き込みながら、豊島区としても都電の利用促進をPRしていくべきである。
- ・バラ祭りなど、沿線ではイベントを頑張っているところもあるので、そうした活動や組織を生かし、電車から降りて大塚を歩いてもらうような仕掛けが作れないか。

<サインについて>

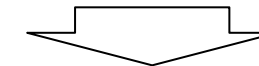
- ・人を呼び込むにはわかりやすい案内・PRが大切だが、豊島区にはサインが少ない。また、駅の案内板も更新されていないものが多い。オリンピック開催を契機として、海外の人にもわかりやすいサインを作っていく必要があるのではないかと。
- ・東京メトロと都電の乗り換えは「雑司が谷駅」と「鬼子母神駅」であるが、都電の駅には「雑司ヶ谷駅」がありわかりにくい。こういうわかりにくい状況をサイン等での誘導していくことが重要。

<大塚駅へのアクセスについて>

- ・自由通路等が整備され、以前と比較して、乗り換えが便利になった。
- ・高齢者パスがあるので、とりあえず大塚まで都電で行き、大塚から出るバスやJRに乗って移動することが多い。
- ・大塚駅はJRとの乗換以外には使わず、街を散策することはあまりない。

<大塚天祖神社について>

- ・神社で月に1回イベントを実施する、公開で結婚式を挙げるなどして集客できないか。



区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針(全体構想)への主な反映事項

- 駅関連の交通基盤・施設の強化
 - ・JRと都電との乗換の利便性の向上、駅施設のバリアフリー化など
- 交流拠点としての魅力や利便性の強化
 - ・都電を生かした観光まちづくり、案内サインの設置、地域資源の活用、商店街の活性化

要町駅・千川駅(西地区)

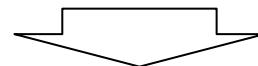
区民ワークショップにおける主な意見

<駅設備等について>

- 千川駅、要町駅ともにエレベーターが要町通り南側の片側1箇所にしかならず、最低限のサービス水準になっている。
- 千川駅の階段は滑りやすく、長く、暗いので、高齢者が歩くには危険であり、改善が必要である。
- 生活拠点にふさわしい設備(エレベーター等)が必要である。
- 千川駅ではホームドアの設置が必要である。

<駅周辺について>

- 自転車利用者のマナーの悪さが目立つ。
- 歩道と自転車走行レーンを分離すべきである。
- 駐輪場は通勤・通学など駅の利用者でほぼ満杯になっている。
- 買い物など日中に駅周辺に自転車で行く人が多いが、駐輪場を使えない状況になっている。
- 高齢者は徒歩よりも自転車での移動を選ぶが、必ずしも駅直近に駐輪場がある必要はない。
- 商店街の空き店舗を活用することも含めて、日中の自転車利用者のための駐輪場を分散して配置することも考えられる。
- 日中の自転車利用者は、通勤・通学者ほど急いでいないので、ちょっとくらい歩くことは問題ではない。
- 千川駅周辺は、歩道と車道の段差が大きく、ポール型フェンスが設置されているなど、自転車で走っていると危険を感じる時がある。
- 今後、移動が楽な電動アシスト自転車が普及していくと思うが、電動アシスト自転車対応の駐輪スペースも必要になるのではないかと。
- 高齢者にとって、三輪車は走行が楽で(転倒しにくい)、買い物もしやすい。今後は三輪車対応の駐車スペースの確保も必要である。
- 駅周辺に高齢者の方々が休憩できるベンチや緑陰があると生活拠点にふさわしくなる。
- ベンチや屋根付のバス停の充実等も必要である。



区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針(全体構想)への主な反映事項

- 駅関連の交通基盤・施設の強化
 - ・バリアフリーの充実(エレベーターの増設、階段の改善)
 - ・ホームドアの設置(千川駅)
- 生活拠点としての利便性・快適性の強化
 - ・歩道と自転車走行レーン分離、日中の自転車アクセスに対応した駐輪場の配置、高齢化を背景としたアシスト自転車、三輪自転車の利用増加に対応した駐輪施設の整備
 - ・ベンチの設置や緑陰空間の形成などによる集いの空間の整備

椎名町駅(西地区)

区民ワークショップにおける主な意見

<駅周辺について>

- 駅舎が新しくなり利便性が向上した。また、コンビニ、広場、交番などもある。
- 歩行空間や少し休める場所ができたのはよい。
- 駅前の商店街裏側で火災があったが、道が狭隘であり消火活動が困難であった。道路を一本挟んだ地域では、まだこういった危険な場所が残っている。

<駅周辺の地区の違いについて>

- 椎名町の南側と北側では性格が違う。北側はすでに住宅地として発展しているが、南側の発展は遅れており、駅周辺での開発では、南側地区にも新しい波をもたらすような開発であってほしい。
- 椎名町駅周辺は回遊性に乏しい。近くに長年住んでいても行ったことのない地区がたくさんある。例えば椎名町駅の北側の住民は、めったに駅の南・東側にはいかないのではないだろうか。
- 南北の交流の機会は、長崎神社のお祭りと、豆まき大会がある。
- 山手通りができて町が分断されてしまった。(昔は山手通りを挟んで一つの町会だった)

<椎名町駅の南側地区>

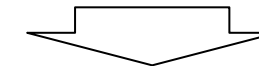
- 住宅地としての活性化に重点をおくべきである。また、若者を呼び込むような施設が必要ではないか。
- 住宅地を整備すれば、自然と商店街も活性化すると思う。住宅地としての整備が中途半端なため、商店街に集客が見込めず、事業の採算性がとれないので、新しい店が入らないのではないかと。
- 椎名町北側にあった橋本病院跡地がそのままになっており、その後の何ができるかわからない。

<日常生活機能について>

- 日用品は、椎名町駅の商店街で揃うが、日用品以外のものは池袋で買うことが多い。
- 椎名町の商店街はほとんどすたれてしまっている。また、高齢化で後継者がいないことも問題。
- 椎名町から東長崎にかけて、多くの商店街があるが、それぞれの連携があまりない。商店街同士が連携して盛り上げていくことも必要ではないかと。
- 若者が気軽に入れるようなカフェがない。お得意さんで席が埋まっている喫茶店には入りづらい。また、ファミレスもなく、飲食店ができて2~3年で店をたたんでしまう。
- 歯医者比較的多いが、大きな病院や眼や皮膚科が少ない。
- ある程度大きい病院は、高齢者を抱える家族にとっても安心な要素(何かあった時にすぐに駆けつけられる、入院したとしても身近にあれば行きやすいなど)であるし、高齢者からみれば、他の高齢者とのコミュニケーションの場ともなるはずである。
- 商店街へのアクセスしやすさという点において、商店街で駐輪場を整備することが重要である。(各店舗での対応は難しいと思うので、どこかにまとめて作るなどの工夫をして。)
- 会合を気軽に行えるような場所がない。区民ひろばは1か月前に予約が必要であり、使い勝手が良いとは言い難い。

<その他>

- 補助172号線の道路ができることは大きい。それを契機にまちづくりができればよい。



区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針(全体構想)への主な反映事項

- 生活拠点としての魅力や利便性の強化
 - ・飲食店、病院、地域交流施設等の生活関連機能の充実、南北の地域交流の促進、若者世代の定住、駅周辺商業の活性化など

東長崎駅・落合南長崎駅(西地区)

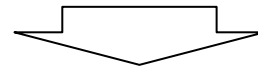
区民ワークショップにおける主な意見

<東長崎駅及び周辺について>

- ・東長崎駅は、駅改修後非常に使いやすくなった。
- ・北口の道路が狭いこともあり、現状は利用がしづらい。道路の拡幅とともに、人が来るような整備が必要である。
- ・都市計画道路補助 172 号線の整備と合わせて、北口駅前の整備を進めることが考えられる。
- ・駅を挟んで、南北の交流はあまりない。商業施設の充実と合わせて、駅周辺にも地域の人を利用できる施設があるとよいと思う。
- ・南口駅前のひろばは、よく活用し、人が集まっていると思う。イベントにも利用している。
- ・この地区では、保育園の需要はあるが、現状は足りていない。駅周辺に保育園があると便利であると思う。
- ・この地区には、北に東急ストア、南に SEIYU、目白通りにライフ、近隣にサミットがあり、買い物には便利である。一方で、駅周辺の商業施設（商店街）は、今の世代で店を閉めるという店舗が多いと思う。
- ・食事が美味しく、客が付いている店舗はあるが、閉店時間が早い、休日は営業していないなどの理由により、若い人はあまり利用していない。
- ・地区を分断する踏切は、「開かずの踏切」状態になることもあるので、改善が必要ではないか。
- ・東長崎駅近くの SEIYU の駐輪場は、駅利用者が駐輪していることも多く、スーパーの利用者が利用したい時に、満車で利用できないことがある。

<落合南長崎駅及び周辺について>

- ・鉄道駅が近く、交通利便性が高い地域である。
- ・西武池袋線や都営地下鉄大江戸線の利用に加えて、路線バスの利用も多い。
- ・南長崎地区は、鉄道やバスなどの利便な地域であるが、千川・要町方面に直接行く公共交通手段がない。
- ・南長崎スポーツセンターと南長崎スポーツ公園ができたことにより、アイサイト南長崎を含めて、駅周辺での回遊性が高まり、街に賑わいが生まれたと思う。
- ・落合南長崎駅は、自転車置場はあるにも関わらず、マクドナルドの前に自転車が放置されることが多い。マクドナルド前は道も狭いこともあり、自転車が放置されると、周辺の商業施設も含め、使いにくい。



区民WSを踏まえた、土地利用方針、都市づくり方針（全体構想）への主な反映事項

- 駅関連施設等の適正な管理
 - ・駅利用と店舗利用を分けた駐輪場の適正な管理、広場のイベント利用等の促進、東長崎駅踏切の安全対策など
- 生活拠点としての魅力や利便性の強化
 - ・保育園や地域交流施設等の生活関連機能の充実、南北の地域交流の促進、駅周辺商業の活性化など
- 鉄道を補完する南北の公共交通の強化
 - ・駅と周辺の区民施設、観光資源などを結ぶコミュニティバスの運行など